

「モーションタイトの開発についてⅦ」

「モーションタイト」は、標準のねじよりも1~2割高い締め付けで同等の軸力が出る構造となっています。当然、戻しトルクも高くなるため、これだけでも緩みにくいことがわかります。

緩まないこと、2割増しの振幅荷重でも折損しないこと、安定した軸力が得られること、などの優れた性能により、より高い軸力設定が可能となります。それにより、ボルトのダウンサイジングが可能になれば、軽量化に加え、ボルトの値段が下がるため、大幅な原価低減となります。2種類のねじを1種類に統一することで工具も削減でき、現場の作業効率も向上します。さらに、ねじ長さを短くすることで、締結物を薄く軽くし、タップ穴も短くできるなど、設計者の1グラムを削る苦勞を吹き飛ばすような多大なメリットが得られます。

10年後には、乗り物の電動化が世界中で進みます。大容量のバッテリーを抱えるため、軽量化はこれまで以上に求められます。

変えられないと言われていた要素技術の分野で、軽量化というイノベーションを起こすことができたなら、物づくりの世界を根本から変えることができるのではないのでしょうか。

新型コロナに負けない熱、情熱を持ち続けて、研究開発を続けていきます。

有限会社アートスクリー
代表取締役 松林 興